

写 湊 晶子様

堀地史郎様

学年末のご多忙の中をご返書いただきまして、まことにありがとうございました。一月十八日の面談の記録にもありますように、その際具体的提案として申し上げ、かつ常務理事がご関心を示された三号館の改築案についての検討のお約束、学内関係者への説明用パワーポイント情報を私どもにも見せると理事長が快諾された件の日時のご連絡が、ご返書のなかに当然、含まれているものと、期待して拝見しましたが、二点とも避けられたようでございます。まことに遺憾に存じましたが、当会の中心メンバーとも相談し、そちら様のご返書の流れにそってお願いと、あらためての意見をお届けします。

その前に一言申し上げます。ご返事をお待ちしている間に、私は文化庁の有形登録文化財建造物の担当部署を訪ねて、制度発足の趣旨や仕組み、各種の優遇措置、担当庁としての一般の見解などを伺ってまいりました。なぜ平成八年に文化財保護法が改正されるにいたったのか、時代背景の推移等も合わせて、私なりに理解いたしました。

申しあげるまでもなく行政は中立ですから、民間の文化財保有者に保存を促すことには限界があるが、との用心深い前置きをされながら、担当官は「日本にただ一つしかない建物を群をぜひとも大切にしたい」と実に小さな声で、しかも目を伏せて「ひとりごと」のようにつぶやかれました。明らかに言質をとられたくないための行政官の防衛の形であることは、かつての取材経験ですぐに察しがつきます。しかし発言者が明らかになって、責められてはお気の毒ですので、これ以上は申し上げません。

専門家としての良心・見識とお役目の板挟みで、それ以上は発言できない苦衷をありありと感じました。それほどに東寮と旧体育館の存在は専門家の間では評価が高いのだということを知った次第でした。

前置きが長くなりましたがご返書の枠組みに添って次に申し述べます。

1. 東寮の用途については、これまで断片的にしか申し上げていませんが、先生方の研究室あるいは外部の学者・研究者・学生たちとのセミナー室、学術情報交流室、談話室などに利用できませんか。名称その他が不適切な場合はどうぞご容赦ください。教室として

も小人数クラスであれば、むしろ利用機会が多いと思います。一部の個室の壁はすでに取り壊し、広くして利用されています。天井が低いとの説もお聞きしましたが、科学の実験をするのでなければハンデではないと愚考いたします。暖炉のあるパーラーは談話室にはよい雰囲気を醸し出すと思います。あの煉瓦のアーチはなかなか味がある、との意見も聞いております。もちろん事務室への転用は除外されて当然でしょう。

改修には費用がかかりますが、解体プラス新築に要する費用と突き合わせて考える必要があります。以前、解体費について面談の折にご質問しましたが、競争入札に関連する事項だから、との理由で概算も示されませんでした。

三号館の件については「あえてふれませんが」と言及を避けられましたが、キャンパス内の建物を融通しあい、総合的に考えるのが組織運営本来の姿でありましょう。寮の床面積は三号館の半分であっても、一時的に緊急の疎開場所と定めて、不便を忍んでいただく。一部は分散して別の場所に移る。三号館をより居住性のいいものに建て替えられれば、教室も研究室もさらにゆとりをもって利用できるようになるのではないのでしょうか。また八十とおっしゃった研究室が一か所に集中しなくてはならない理由はないと思います。

私どもは早くから寮としての利用を外すことに決めていました。しかしパーラーと個室一つを現状で保存し、他は別途に活用したからといって「寮建築」としての価値が損なわれることはありません。近世以前の城が保存される場合、内部は多くの場合、博物館になっています。しかしそれで城の保存の意味が失われるわけではありません。

2. 体育館については74年竣工の新体育館が現行の耐震基準上不適格とは、深刻な問題です。体育のプログラムが多様化し、学生の選択肢が広がる中で、体育の授業は細分化する流れにあります。建物のみ一体化して「効率化」することが、どこまで可能なのでしょうか。体育関係の卒業生の意見では、一見複雑に見える建物だが使い勝手がいいという声もあり、極論すれば新体育館を解体するほうが先決ではないか、とさえ思います。

3. 老朽化については、どの建物でもメインテナンスが必要であることは言うまでもありません。シンポジウム冊子の41 42ページにある参加者（内田青蔵氏）のご意見が、保存を大学が決意されたことへの敬意とともに、維持するための努力の必要性を指摘しています。私どもは考えるための十分な情報を、願っても与えられませんので、外観から判断するだけですが、閉寮されて以来ほとんど放置され、清掃すら不十分な荒れた寮は、傷み

がいつそう烈しく、みすばらしくなりました。ご返書にあげられた本館等の破損や故障について、これらへの適切な対応が優先課題であることは言うまでもありませんが、それらと同等の配慮を二つの建物が必要としていたのです。

仰せのように限られた資金の有効活用は重要な課題で、リノベーションにかかる費用と解体・新築に要する費用とは、正確に積算し、対比検討されるべきでしょう。さらにいえば三号館の新築のほうが構内での立地もよく、将来的には有利だと考えられます。

コンクリートの中酸化（炭酸化）については、第一線の構造専門の学者のご意見を尊重したいと思います。建造物に関わる行政官や実務家の判断が、立場によって微妙な差異をうむことはよく見聞いたします。だれの意見を信頼すべきか判断に迷いますが、学者として研究を重ね、多数の建物を見てこられた方のご意見を参考にしたいと思います。

4. 耐震設計基準については私の個人的経験を申し上げます。ご返書に付けられた耐震設計基準の変遷の図で気づいたのですが、48年の福井大地震（都市直下型）を記憶しています。私はその時すでに女子大に入っていました。被災後すぐ帰郷すると、子どものころから見慣れていた福井銀行本店ビルが戦災で焼けたにもかかわらず、地震にびくともせず焦土の中に残り、今に至るまで本店として立派に活用されています。しかも上に階を継ぎ足しております。目立つビルですから違法建築ではないでしょう。あれを思い出すと、戦後の改変が重ねられた耐震基準とは何か、と直観的に疑問を持ってしまいます。

確かに法律等をクリアする必要があり、関係者の安全を確保することは最優先だとは思いますが、それによって解体、粗大ゴミの排出、環境汚染等の連鎖を考えますと、真の経済性を志向することが大事ではないでしょうか。「初めに解体ありき」の発想ではなく、小さくても個性的な大学を、という大学創建の理念を貫いていただきたいのです。

5. 仰せのとおり大学を愛する気持ちは同じでも、妥協点を容易に見いだせない難問です。私も二棟を喪うことによる精神的損失の大きさを考えています。原田様のご返書に書かれたように「理事会で決定されたから変更できない」と仰っているのではないとすれば「ならばお考えなさいただけじゃないか」と切に願っています。

確かに長い時間をかけて練り上げられた案だと思いますが、残念ながらベストだとは思えません。貴重な何か喪われるのを痛感します。安井記念館前の空間の広がりや緑豊かな樹木が消え、代わりに高い建物がそびえて視野を遮るなど、想像するだけで寂しいこと

です。そう考える人が減ったことは歴史の流れだと言いつけてよるしいものでしょうか。

理事長個人が理事会決定を変更することはできないと仰せですが、国際文化会館の保存を決定された高垣佑氏の例があります。それによって理事長への尊敬が高まりました。もちろん同氏はそれを望まれたわけではないでしょう。ただ責任者の果たしうる役割の重さを感じます。さらに加えて私たちは、最初の卒業生学長の時代に創建者の思いがこもる由緒ある建物が解体された、という悲しい事実を本学の歴史に残したくはありません。

6. 保存については、かねて永井路子さんが「手ざわりの大事さ」を強くおっしゃっています。具体的な物が残ることによって得られる五感への刺激は、人間形成にとつてきわめて大事です。博物館的な記念品の陳列だけでなく、豊かな空間という、教育の場としてはかけがえのない環境が、これまで保持されてきた建物群によって守られてきたことを、高い視点から見直すべきではないでしょうか。

7. 私どもは今回のキャンパス開発計画が始まって、初めて母校の将来を真剣に考え、再三保存をお願いしてまいりました。きつとうるさくお感じであろうと恐縮しています。一般に東京女子大学の卒業生は母校に対して「薄情だ」と言われてきました。私自身にもその傾向があることを認めざるをえません。それがなぜ今になって、と不思議に思い、自問自答しつつ、先輩や後輩の皆さんにも問いかけ、考えつつ動いております。

残念ながらこの問題を多数の卒業生がご存じありません。学報に出ていることすら気づかない人もいます。見ても読まない人もいます。さきごろ同窓会理事の方々と話し合いましたが、幹部の方たちは昨年の寒い時期に、パワーポイントでご説明をお聞きしたそうですが、私どもは全く知りませんでした。維持協力会の一員として、貧者の一灯を掲げている私ですが、こんな大事な事業が知らないままに進んでおりました。いかに薄情な私でも何かしようと考え、多忙な先輩の方たちもご協力・ご支援をいただきました。こうした熱意が将来の大学を支える力になることをぜひお心においていただきたいと思います。

最後までお読みいただきありがとうございました。三号館改築の具体的なご検討、映像手段によるご説明なども含めて、ぜひとも本筋に沿った前向きのご返事を頂きたい心からお待ち申し上げます。